



## 子どもたちとともに

園長 渡邊 舞

毎週木曜日の朝、子どもたちの姿や遊びを「わくわくシート」と名付けたシートに記録したものを持ち寄り、職員でディスカッションする時間があります。子どもたちの姿をどう見とり、次にどんな環境や援助が必要かについて情報共有を行う「保育の振り返り」の時間です。1月に入り、この振り返りの時間では、子どもたち一人一人の成長に伴い、友達（異年齢も含む）との関わり方の姿に変化が見られた場面のエピソードが多くなりました。そして、特に子どもたちへの援助のタイミングについて考えることが増えました。これまでは先生が友達の一人となっていた場面でも子どもたち自身で物事を進めるために一歩引いて見守るタイミングを見極めるなど、子どもたちの成長に合わせ、援助の仕方や考え方をアップデートする必要性が常々話題になります。私たちは、日々、目の前の子どもたちから学ぶことばかりです。

1月のある日のこと。年中さんと年長さんは2人でへびになり、卵を温め、カラスから卵を守るという遊びが始まりました。ここで担任は、卵を狙われるドキドキ感を楽しみたいのだろうと予想し、カラス役が必要と考えました。そこで、担任がカラス役になることにしました。その後、へびとカラスのやりとりを楽しむ遊びが始まり、しばらくは、カラス役の先生が近づいてくることを喜ぶ遊びに留まっていました。ちょうどそのころ、ある年少さんが楽しそうな雰囲気を感じて遊びに加わりました。しかもカラスになりたいと言っていました。担任は、このとき、子ども自身で「もっとこうしよう」と工夫しながら、遊び込んでほしいと願い、カラス役をやめ、一歩引いて、カラスになった年少さんとへびさんたちの関わりを見守り、支えることにしました。結果として、へびの卵を守るために、年中さんと年長さんの2人は「次はこうしたらどうかな？」と2人で話し合いを始め、必要な道具を意欲的に作ったり、年少さんの思いがけない発想に刺激され、さらに楽しくなるための工夫をしたりしながら遊ぶ姿へと変化していきました。担任が子どもたちへ願いをもって一歩引いたこのタイミングは大変重要だった、ということが後の振り返りの時間で話題になりました。



今、目の前の子どもの発達段階がどこにあるのか、次にどんな経験を踏んでどう育ってほしいと願うのか、それによって子どもたちへ掛ける言葉が変わります。また、今、手を差し伸べるべきか、見守るべきか、立ち止まって見極めることが重要です。ご家庭でもきっとさまざまな場面で成長したお子さんの姿が見られると思います。これまで手を差し伸べる必要があったことも、いつのまにか自分からやってみようとして進んで挑戦するようになったことが多いのではないのでしょうか。次にどう願い、成長を支えるか。日々子どもたちの成長とともに、私たちも、考え方や見方をアップデートしながら、成長し続けていきたいものです。



子どもたちとともに、これからも、日々、学びの連続です。